

# 春の叙勲

春の叙勲が4月29日付けで発表され、市内からは矢ヶ部一信さん（大浜町）が瑞宝双光章を、大津究さん（栄）と坂田潔さん（上宮永町）が瑞宝単光章をそれぞれ受章しました。

## 47年にわたり市民への奉仕の精神を貫く

「市職員として給料をもらい、当たり前前の仕事をしてきただけなので、叙勲は身に余ること」と控えめな笑顔を見せました。

矢ヶ部さんが柳川市職員に採用されたのは昭和29年。土木課を振り出しに総務課、教育委員会、水道課、税務課、企画庶務課、農政課、保健衛生課、企画財政課など、市のほとんどの業務を経験し、人事秘書課長、農業委員会事務局長、市長公室長を歴任しました。平成6年1月には収入役に就任。13年9月に退職する2期7年8か月間、収入役の職務をこなすとともに、3役の一人として市政を支えました。



瑞宝双光章  
元柳川市収入役  
や かがぶ いちのぶ  
矢ヶ部一信さん（76歳）

## 消防団合併直後の組織の一本化に尽力

「仕事をもちながらの活動は大変ですが、消防団は地域安全の要。地域の皆さんも活動に理解と協力を」と大津さんは後輩へのエールと地域の協力を呼びかけ、話を結びました。

「副団長や分団長などの幹部をはじめ、団員の皆さんの協力で、団長としての務めを果たすことができました」と団長時代を振り返る大津さん。昭和46年に青年団の先輩の誘いで大和町消防団第2分団に入団し、班長や部長、分団長を歴任し、平成元年に副団長に就任しました。この間、火災や風水害が発生すると率先して現場で指揮を執り、被害を最小限に食い止めるため全力を尽くしました。大津さんが消防団長に就任したのは平成17年4月。1市2町の合併に伴い消防団も合併した直後とあり、まとめるのは難しい面もあったそうです。しかし、団員同士の和を一番に考え、懇親の場では腹を割って語り合うことを心がけました。



瑞宝単光章  
元柳川市消防団長  
お おつ きわむ  
大津 究 さん（64歳）

## 現場での経験を補う訓練の大切さを強調

「火災現場での確かな判断ができるようになるには20年、30年の経験が必要です。経験を補うのは、日々の訓練しかありません」と、後輩の団員に訓練の大切さを呼びかけました。

「今回の受章に感動するとともに恐縮しています。先輩たちの指導の下で消防団活動を続けた結果」と坂田さんは感謝の気持ちを表しました。坂田さんが消防団員になったのは昭和44年。柳川市消防団第1分団に入団しました。班長、部長、副分団長、分団長を経て、平成14年に柳川市消防団の副団長に就任。20年3月に退団するまで、消防団幹部としての職責を果たしてきました。



瑞宝単光章  
元柳川市消防団副団長  
さ かた きよし  
坂田 潔 さん（65歳）

御花元祿の間で5月10日に開催された第110回九州市長会総会。九州8県115市から参加があった。



## 九州各県115市の代表を市民あげておもてなし 九州市長会が柳川で開催



行政視察する市長らをコーラスグループが歌でおもてなし

第110回九州市長会が5月10日と11日、御花（新外町）で開催されました。同会は、都市が抱える共通課題を整理し、国に制度の改正や財政支援を求める事項としてふさわしいかを審議するほか、行政の各分野で先進的な取り組みをしている市からの事例報告が行われます。毎年春と秋の2回、九州各県が持ち回りで実施。福岡県では4年ぶり、本市では初めての開催となりました。今回の会議には、九州8県118市のうち115市が参加。市長と随行者など約400人が本市を訪れました。初日の10日は総会が開催され、金子市長が議事を進行。合併特例債の適用



2日目の昼食会場では商工会議所女性部会が配膳の手伝い

期間の延長を求めるなどの合併市町村に対する支援策の充実や、母子家庭の就業支援など福祉施策の充実強化などを国に求めるなど16議案を承認、決定しました。2日目は、行財政、社会文教、経済の3グループに分かれ意見交換を実施。その後、本市の観光行政についての視察が行われました。今回の九州市長会の開催には、事前の清掃活動、懇親会などでのアトラクション、2日目の昼食会場での接待など、たくさんの市民の皆さんが協力。参加した市長の中には、自身のブログで柳川でのおもてなしをほめるなど、市民と市が一体で盛り上げた九州市長会となりました。